



現場や地方を大事にする



参議院議員 安達きよし

きよし便り

第4号

皆さん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか。いかがお過ごしでしょうか、暑くなっています。手洗いやうがいなどのコロナ対策に加え、小まめな水分補給を忘れずに、熱中症や夏バテにも十分お気をつけください。

今年1月、私が最も敬愛する作家の半藤一利さんがお亡くなりになりました。「日本のいちばん長い日」「昭和史」など、近現代史を丹念に取材された数々の著作を、私は度々、読み返しています。その半藤さんが、決して使わなかった言葉があります。それは「絶対」です。少年時代、敗戦直後の焼け跡にポツンと立ち、「絶対に日本は勝つ」「絶対に神風は吹く」などと、周りにあふれていた絶対というものは嘘で、絶対なんてこの世にはない、と強く思っ



言葉が軽い政治はダメ。想いを形に、信頼を得る3年目に

たからだそうです。さて、年明け早々、2度目の緊急事態宣言が首都圏などで発令されました。菅総理は新聞のインタビューで、「1か月で感染拡大を絶対阻止」と述べました。断続的に、いま（執筆中の6月中旬現在）も緊急事態宣言下であり、もう半年近くになります。「政治は言葉」と言われます。簡単に「絶対」を使う、一国のリーダーの言葉の軽さが気になります。

言葉といえば、もうおひとつ。コロナ対策担当の西村大臣です。西村大臣は、人の流れを抑えるため、産業界にテレワークの積極的な導入、出勤者の7割削減を繰り返し求めていきます。「言い訳は通じない」「この今できなくてどうするか」と、記者会見でも強く訴えました。しかし、自らの組織で、そのテレワーク導入率0%や、異常な残業の実態が、新聞やテレビで報道されました。「緊急を要

することが多かった」と釈明しましたが、どこの会社でも緊急を要する仕事は多くあります。「言い訳は通じない」と自ら言っておきながら、これはダメです。自分たちは、特別。そんな、上から目線が透けて見える言動には、人はついていきません。

論語に、次のような話があります。弟子に「政治で大切なことは？」と問われた孔子は、「食（経済）、兵（軍備）、信」の3つと答えました。そのうち一つを

